

### 第3回和歌山市との木の勉強会を開催

2月24日夕方の6時より和歌山市西浜にある木材会館において和歌山市役所との第3回目の木の勉強会を開催しました。宮本理事長の挨拶の後、先週17日に行われました非住宅木造建築物腐朽研修会「地域材を活用した低コスト公共木造施設の整備（杉戸町建築課渡辺景己氏）」と「木造建築の防耐火設計（桜設計集団代表安井昇氏）」で配布された資料を基に勉強会を行いました。資料の概略を説明したのち、同講演会に参加された方より講演内容についての感想を述べていただきました。「燃え方をコントロールする」、「規格品を使うこと」など同じようなコメントがなされました。

設計士の方からは、現在コストなどの点から集成材や米材などが多く使われているが、紀州材について木材供給側から情報を提供してほしい。また、県よりは、10年もすれば山の木はどんどん伐れる時代になる。紀州材を多く使ってほしい。紀州材にこだわるのならコスト、施工性、機能性、デザイン性など工夫すべき情報を提供してほしい。また、関係者がそれらの情報交換できるような機会を創ればなどの提案がなされました。

対して、木協側より、現状では紀州材を供給することに課題があり、今供給できる範囲の中で木造化を進めていただきたい。また進められている公設市場の改築などを例として取り組めればありがたい。今、6m材で22mのスパンの確保が可能となっていることや、福祉施設等の木造建築の実績もありそれらを例として提供もできる旨の意見が述べられた。

県森連よりは、川下の情報がなかなか山側には上がって来ない。川上と川下がつながるような会議の場があれば、との提案がなされました。

最後に白樫副理事長より、一般の方々には木が良いというのは香りと言われる、それを活かすことも必要ではと話し、今日の会議出席のお礼を述べて閉会しました。



木材会館（和歌山市西浜）大会議室で36名が参加して行われました。